



2 各機能における方向性

それぞれの機能について、方向性や連携のイメージをまとめます。なお、具体的な導入施設や規模等については、この方向性に基づき、基本計画において決めていくこととします。

(1) ホール機能「市民の“ハレの場”」

市民の利用を中心としたホールとして、市民が使いやすい規模、形態、設備を備え、発表会や講演、行事、イベント等、多目的に利用できる、市民にとって特別な「ハレの日」にふさわしい場所とします。

また、出演者や観覧者だけでなく、たまたま立ち寄った人も文化に触れ、身近に感じることができ、それが文化へのつながりのきっかけとなることで、本市の文化芸術が一層広がり、育っていく、そんな文化芸術とふれる・感じる・つながる空間をめざします。

ホールの方向性としては、2層以上の大ホール及び多目的ホールを設置し、大ホールについては、1階客席のみ使用の場合、中規模ホールとしても使える仕様を検討します。具体的な規模、席数等については、席数のみをピックアップして検討を行うのではなく、これまでの市民の利用状況等を分析のもと、舞台の間口、奥行き、音響特性、さらには楽屋の配置やバックヤード、搬入経路などのほか、市内既存ホールとの役割分担や差別化など、さまざまな角度から多面的な検討が必要であると考えます。

そのため、「市民のハレの場」という視点のもと、市民の皆さんが使いやすいホールについて、専門家の意見なども踏まえ、基本計画において検討することとします。



写真：元市民会館大ホール

<市内既存ホール等一覧>

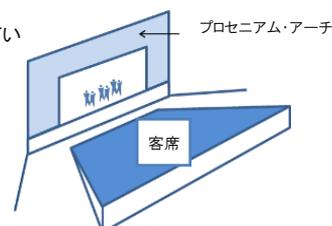
施設・ホール		客席数	備考(舞台)
市民会館 ※閉館	大ホール	1,003	プロセニウム形式 ^(※1)
	ドリームホール	200	平土間形式
福祉文化会館	文化ホール	347	プロセニウム形式
市民総合センター	センターホール	429	プロセニウム形式
	多目的ホール	165	平土間形式
生涯学習センター	きらめきホール	478	プロセニウム形式
男女共生センター	ワムホール	188	プロセニウム形式
	ローズホール	70	平土間形式
上中条青少年センター	青少年ホール	350	平土間形式
立命館いばらきフューチャープラザ ^(※2)	グランドホール	1,000	プロセニウム形式
(新施設)	大ホール	-	-
	多目的ホール	-	-

(※1)プロセニウム形式:

プロセニウム・アーチと呼ばれる舞台前面の額縁状の枠により、舞台と客席が空間的に分離されている形式のこと。舞台上部の空間や袖、床など、観客の目から見えないところに舞台機構や設備、セットを隠すことができるため、趣向を凝らした演出をしやすのが特徴。

(※2)立命館いばらきフューチャープラザ:

立命館大学の施設ですが、市民開放施設として市民も利用できるため、一覧に加えております。





(参考) 近隣市のホール等施設の動向

元市民会館は、市内における最大規模のホールを有する施設であり、本市の重要な文化拠点の一つとして機能してきました。同じように、大阪府内の各自治体にはホール機能を有する市民文化施設が多く存在していますが、経年劣化などの問題から、建て替えや改修等の対応が進められています。

また、豊中市、堺市、東大阪市、枚方市などの市において、市民文化施設への新機能・付加機能の導入を図る新規計画も進められています。全体的な特徴として、各市の施策を踏まえた利用率の向上(文化振興推進)、財政面にも配慮した管理運営の仕組みなどの背景から、ホールのみならず、多目的に利用できる空間や、多様な機能を有する複合的な施設として整備する傾向が見られます。

【近隣市事例】 ※整備予定がある場合は新施設の計画内容等(平成 29 年 12 月時点)

■北摂

事例	直近の改修、 建替え事業等	概要
豊中市立文化芸術センター 平成 29 年(2017 年)開館	既存施設との複合化事業	延床面積 約 13,425 ㎡ 大ホール 1,344 席、小ホール 202 席 その他附属諸室
池田市民文化会館 (アゼリアホール) 昭和 50 年(1975 年)開館	平成 17 年(2005 年)に大ホールをリニューアル	延床面積 約 8,365 ㎡ 大ホール 1,072 席、小ホール 245 席 その他附属諸室
吹田市文化会館 (メシアター) 昭和 60 年(1985 年)開館	平成 29 年度(2017 年度)改修工事のため休館	延床面積 約 16,120 ㎡ 大ホール 1,397 席、中ホール 492 席、小ホール 156 席 その他附属諸室
高槻市新文化施設 平成 34 年度(2022 年度) 開館予定	市民会館の老朽化に伴う建替え事業	延床面積 約 12,000 ㎡ 大ホール約 1,500 席、小ホール 200~250 席 その他附属諸室
箕面市新文化ホール 平成 33 年(2021 年)開館 予定	市の芸術文化活動を支える総合的な中核拠点整備事業	延床面積 約 7,700 ㎡ 大ホール 1,000~1,400 席、小ホール 250 席 その他附属諸室
摂津市民文化ホール (くすのきホール) 昭和 55 年(1980 年)開館	平成 28 年(2016 年)11 月にリニューアル	延床面積 約 2,858 ㎡ ホール 456 席 その他附属諸室

■その他

事例	直近の改修、 建替え事業等	概要
堺市民芸術文化ホール 平成 31 年(2019 年)開館 予定	市民会館施設・設備の老朽化に伴う建て替え事業	延床面積 約 19,650 ㎡ 大ホール 2,000 席、小ホール 312 席 その他附属諸室
枚方市総合文化施設 平成 33 年度(2021 年度) 開館予定	新たな文化施設の整備事業	延床面積 約 13,200 ㎡ 大ホール 1,500 席、小ホール 400 席 その他附属諸室
東大阪市文化創造館 平成 31 年(2019 年)開館 予定	機能集約を目的とした整備事業	延床面積 約 14,000 ㎡ 大ホール 1,500 席、小ホール 300 席 その他附属諸室



3 公共施設として備えるべき基本性能

本市の中心市街地に位置する公共施設として、災害を想定し、適切な機能を備えておくことは、当然に有すべき基本性能として、検討を行います。

また、子どもからお年寄り、障害の有無を問わず誰もが利用しやすい環境として、ユニバーサルデザインに配慮した施設づくりを進めることとし、移動空間(段差の解消や、エレベーターの設置、案内サインの工夫)や行為空間(多機能トイレをはじめ、誰もが利用しやすいトイレの検討、授乳室、車いす利用者用駐車スペースなど)の配慮事項について、検討を行います。

さらに、環境配慮機能として、省エネ技術や再生可能エネルギー技術の活用を検討するほか、整備後の維持管理のしやすさや、将来予想されるコストの縮減も十分に検討した上で、トータルコストの縮減をめざした施設づくりを検討することとします。

これら公共施設として備えるべき基本性能については、今後、施設機能の検討を行う基本計画において、具体的な検討を進めることとします。



3 敷地の設定

A案、B案それぞれについて課題、メリットの整理、及び関係機関からの意見などを踏まえ検討した結果、B案を敷地案として選定します。

B案選定の理由としては、敷地形状による制約が少ないこと、グラウンド部分が市民の憩いや交流の場となりうること、解体と建設を別の場所で行えることから、工期延長のリスクが低いこと、などがあげられます。また、2つのエリアのリンクにより、広がりのあるまちづくりを期待できること、中心市街地におけるゆとりの空間として、周辺環境を含めた価値創造が図れることなどを、総合的に判断しました。

なお、経費面からの検討では、総額としてB案の方が高額であるという結果となりました。しかし、A案においては、仮施設の設置など一時的な経費が大きく、一方、B案の土地取得や広場整備費は、本市の未来へ向けた経費と考えられることから、用途の性質を考慮すると、経費面における優劣の差は縮小すると判断しました。

ただし、B案選定においても、スポーツやイベント利用者への配慮、中央公園地下駐車場へのアクセスにおける、ベビーカー利用の子育て世代や高齢者への配慮、**樹木(記念樹)、記念碑の移設等**、土地の購入をはじめとした財政的な負担軽減については、今後も十分な調整・検討を進め、適切な対応を図っていくことを条件とします。

4 福祉文化会館等の機能移転の考え方

B案の選定にあたり、福祉文化会館については、新施設の開館まで維持することとしますが、今後、基本計画策定にあたり、ホール機能や子育て支援機能など、新施設における機能を具体的に検討する際には、既存施設との役割分担を明確にし、全体最適化の視点から、既存施設からの機能移転、複合化を含めた整理を行います。

また、現在、福祉文化会館に配置されている水道部の庁舎機能のほか、社会福祉協議会や更生保護サポートセンターなどの各機能については、その設置目的や役割、利用者など、市民生活への影響等を十分に検討の上、新施設への機能移転に伴う既存施設の空き空間への移転を含め、適切な移転先や移転方法を検討します。